

県窓口への対話支援スピーカーの設置

問 マスク等により今まで以上に聞こえづらさを感じる方々への合理的配慮の提供として、県窓口に対話支援スピーカーを設置してはどうか。

答 聴覚障害のある方や高齢により聞こえづらい高齢の方などと円滑にコミュニケーションを図ることは重要であり、筆談やコミュニケーションカードの活用を進めています。

対話支援スピーカーも、有効な手段の一つと考えられるため、県の関係課室に対し、周知してまいります。

対話支援スピーカー…高性能マイクで集音し、小型スピーカーからクリアな音を発することにより、聞こえをよくするための支援機器のこと。

京奈和自動車道の延伸について

問 京奈和自動車道の第二阪和国道への延伸について、県の考えはどうか。

答 京奈和自動車道の延伸は、和歌山市北部地域の利便性の向上や、中心部の渋滞緩和などの課題解消、地域経済の活性化、そして関西大環状道路の一部を形成することにつながります。

この道路の実現は、最重要課題であり、早期に事業が実施さ

れるよう、引き続き、国に対して働きかけていきたいと考えています。

5か年加速化対策

問 5か年加速化対策をどう治水対策に活かすのか。

答 令和2年12月11日に防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策が閣議決定され、初年度予算を含む国の第3次補正予算が本年1月28日に成立しました。

これは通常予算と別枠で防災関係に重点を置いた15兆円の予算が確保されたということで、この予算を最大限に活用して、この機を逃すことなく治水事業を加速化させていきたいと考えています。

南紀白浜空港の更なる活用

問 企業誘致のためにはビジネスジェット駐機場整備が必須ではないか。

答 新型コロナウイルス感染症の影響で定期便の航空需要が減少する一方で、不特定多数の人と同席せず安全に移動できる手段としてビジネスジェットが注目されており、今後、利用者も増加するものと想定していることから、この好機を逃すことなく新しい時代の挑戦を体現する取組の一つとして、令和4年度の完成を目指して、令和3年度中に着手します。

県証紙の廃止

問 段階的に県証紙を廃止してはどうか。

答 クレジットカードや電子マネーを利用したキャッシュレス決済は、証紙に代わる納付方法として、有効な手段だと考えます。

県民の利便性を高めるため、多様な納付方法としてキャッシュレス決済の実現は必要であり、電子申請など行政手続のオンライン化の推進に合わせ、収納システムの構築や運営にかかるコストを勘案の上、段階的な導入を検討してまいります。

カーボンニュートラルへの取組

問 県としての今後の取組をどう考えるのか。

答 第5次和歌山県環境基本計画では、2050年カーボンニュートラルを目指すことを示したいと考えており、これを達成するために、あらゆる場面で省エネ、再生可能エネルギー導入、イノベーションが不可欠であり、本県が実行可能な対策を積極的に取り入れ、脱炭素社会の推進に取り組んでいきます。

カーボンニュートラル…二酸化炭素などの温室効果ガスの排出量から、森林などによる吸収量を差し引いて、全体として排出ゼロを達成する取組。

和歌山県の経済再生

問 健康・医療・福祉に着目した新しい産業の創出を目指してはどうか。

答 ヘルスケアに関連する産業創出及び振興を図るため、東京医療保健大学和歌山看護学部、和歌山県立医科大学薬学部などに、わかやまヘルスケア産業革新プラットフォームへの参画を働きかけるなど、健康・医療福祉分野のニーズと産業界のシーズのマッチングによる新産業の創出・発展に向けた取組を進めていきます。

わかやまヘルスケア産業革新プラットフォーム…ヘルスケアに係る課題解決や健康寿命延伸につながる産業の創出・振興のために、地域のヘルスケア関係者（自治体、医療・介護関係者団体、民間事業者など）が連携する協議会のこと。

洋上風力発電に対する見解について

問 洋上風力発電に係る3か年のゾーニング調査の結果を受けた現時点の見解はどうか。

答 洋上に風力発電を設置するには、和歌山県周辺の海は、黒潮の流れが速く、気象、海象が荒々しい上、海そのものが観光資源であり、景観や騒音など様々な環境上の問題も考慮しなければなりません。また、船舶の往来や漁業者の活動など経済的な問題もあります。

それらの問題をクリアする必要があるため、慎重かつ賢明にこの問題に対処してまいります。

過疎対策

問 過疎地域自立促進特別措置法の失効を控え、今後の本県における過疎対策の必要性についての所見はどうか。

答 県では新過疎法の制定及び現行過疎法における「みなし過疎」の継続指定、また過疎対策予算の確保などについて、国等に強く要望してきました。過疎対策を継続するため、法による国の支援もうまく使いながら、県としても過疎地域に暮らす人々が夢や希望をもって元気に暮らせるように引き続き全力で取り組んでいきます。

県立高等学校の再編整備

問 各県立高校を特色あるものに変えていくためには、どのような手立てが必要か。

答 偏差値等の一面的な指標による高校選びから脱却するためには、県教育委員会が長期的展望を明確に示し、生徒が夢や希望をもって人生を切り拓くことや、教師が前向きに取り組む中で資質能力を向上させることを促し、結果として、各校の魅力・特色化につなげていくことが重要です。今回の再編整備は、まさにその具体化であり、鋭意取り組んでいます。

鳥インフルエンザ対策

問 鳥インフルエンザ発生農場に対する鶏舎の修繕等の県の支援はどうか。

答 発生農場の経営再開に当たっては、鶏舎側面の金網等の破損や小型の野生動物が進入可能な壁の穴の修繕を行い、国が定める飼養衛生管理基準を満たす必要があります。

県では、衛生管理の強化等を推進するため、新政策として「畜産施設衛生管理強化支援事業」を推進し、養鶏農場での衛生管理の強化を図ってまいります。

民間小型ロケット発射場の周辺対策

問 交通渋滞対策と併せて、治安・防犯面での住民不安解消、軽減に対し、できることは何か。

答 国道42号を走行する車両を円滑に流すための信号時間の調整や、見学場周辺の駐車車禁止規制を考えており、今後、通行禁止規制による生活ゾーンへの流入車両の抑制等についても検討してまいります。

また、治安・防犯面については、関係機関等と連携し、予想される状況を把握した上で、パトロールの強化等必要な対策を講じています。

